

アイヌ民族との交易



* 一般郷土史料1337「唐太話」

「唐太話」の中には、上の「津軽の藩士、松前において阿魯舎（おろしゃ）人の歩行を警衛する図」のほかにも、いくつかの興味深いスケッチがあります。

解説

1669（寛文9）年、アイヌ集団は、交易を独占していた松前氏に対し、シャクシャインを指導者として蜂起しましたが鎮圧され、以後、多くの和人商人が「商場（場所）」を請負ってアイヌとの交易を行いました（場所請負制）。

「唐太話」は、19世紀初頭に何度も蝦夷・樺太（唐太）に渡航して交易をおこなった東岐波（現在の宇部市）の三保喜左衛門からの、小郡代官による聞き書きです。体験者による北方の産物・地理・風俗等の記述には説得力があり、間宮林蔵・高田屋嘉兵衛等の記述もあります。

文化年間のはじめはレザノフの来航，ロシア船による樺太への放火・略奪，ロシア船を穏便に退去させるための「文化の撫恤令」等，ロシアとの緊迫した関係が生じていたころであり，そのことを示す記事も多く見えます。喜左衛門の交易の背景にあるものは明らかではありませんが，近世後期の商人たちの活発な活動を知ることができます。

* 当館の「唐太話」にはこのほか、北海道大学所蔵本の写（一般郷土史料1306），1891（明治24）年に村田峯次郎が「長周叢書」の一冊として活字化したもの（一般郷土史料1021・吉田樟堂文庫983）があります。

* いわゆる鎖国の時代にあつて、オランダ・中国は「通商の国（商業貿易のみの国）」，朝鮮・琉球は「通信の国（心を通わせる誠信外交の国）」として交流がありました。

長崎の様子：毛利家文庫 58絵図449「長崎図」など。

朝鮮との通信：毛利家文庫 42御勤事62～66，徳山毛利家文庫 朝鮮人来聘記1～16，県庁伝来旧藩記録878～885「朝鮮信使御記録」など。

琉球との通信：毛利家文庫 第5分冊2幕府1「徳川家康琉球王対面の式覚」徳山毛利家文庫 朝鮮人来聘記17～20など。